

# 奥秩父縦走報告

2009年1月4日(日)ー9日(金)

メンバー：後藤博志 (M2)

只左一也 (M2)

1日目：塩山駅→(タクシー)→新地平→雁峠→  
雁坂小屋 (幕営)

2日目：雁坂峠→甲武信小屋 (冬期小屋泊)

3日目：甲武信小屋→国師ヶ岳→大弛 (幕営)

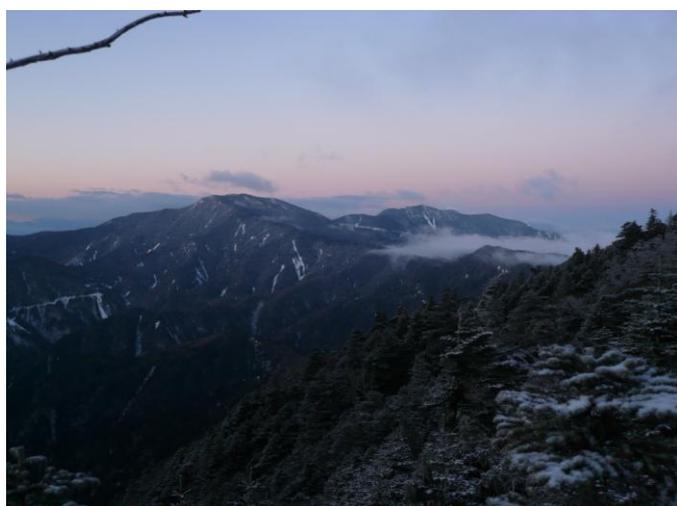
4日目：大弛→金峰山→大日小屋 (幕営)

5日目：大日小屋→瑞牆山→大日小屋→大日岩  
→八丁平→小川山南尾根の2270m地  
点(小川山から1.5km地点) (幕営)

6日目：幕営地→小川山→廻目平→川端下バス  
停→(バス) →小海線信濃川上駅



甲武信小屋を出発。この日の朝も快晴。



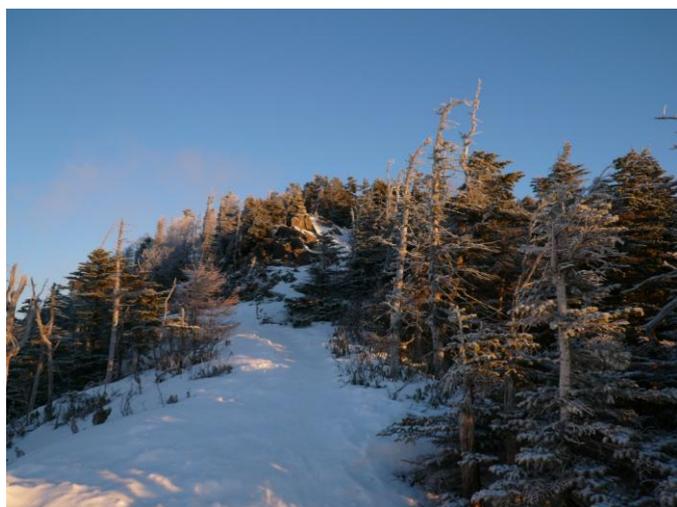
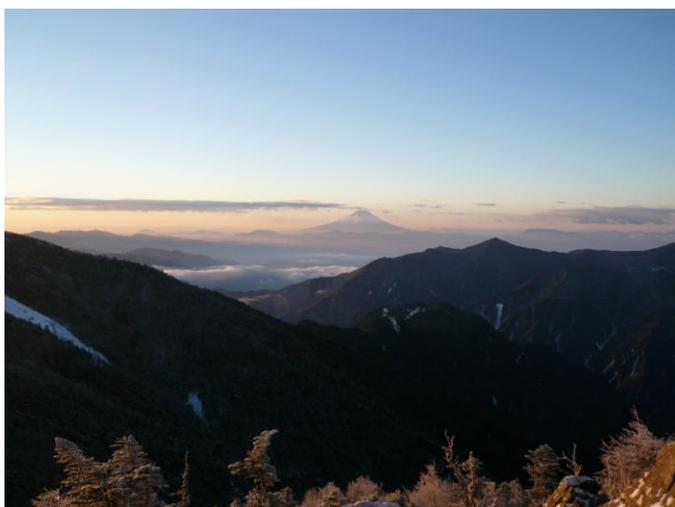
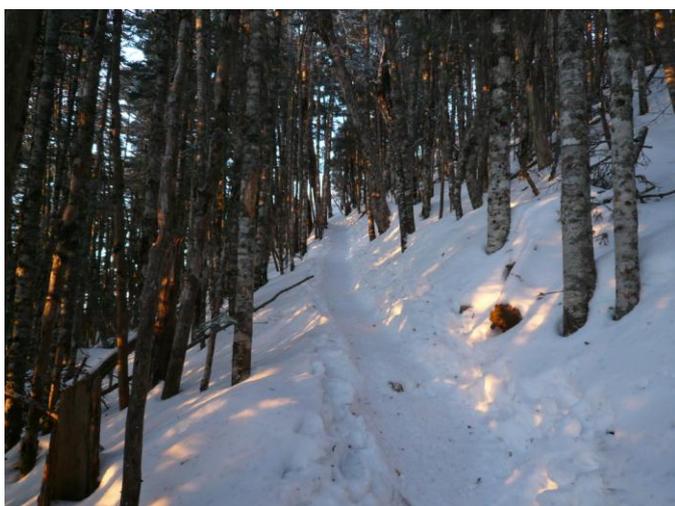
この日の目的地、国師ヶ岳 (中央やや左)

## 3日目 (1月6日(火))

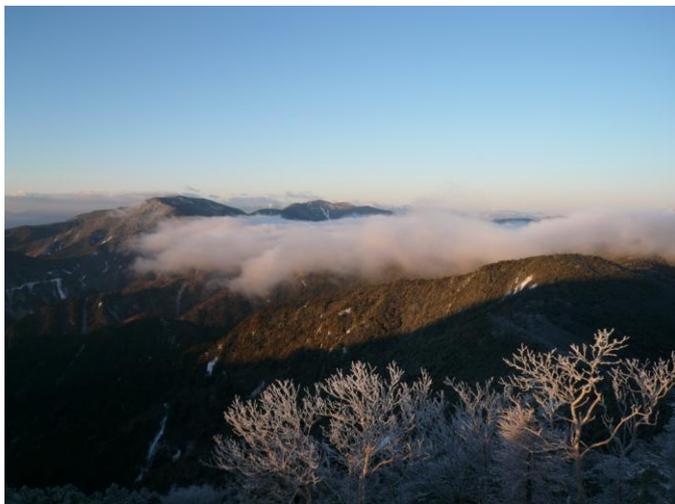
起床	04:30	
甲武信小屋		06:50 発
甲武信ヶ岳	07:20 着	07:40 発
梓山方面分岐	08:50 着	
富士見	09:10 着	
両門ノ頭	09:40 着	10:40 発
東梓	11:30 着	
天狗尾根分岐	16:00 着	16:30 発
国師ヶ岳	16:50 着	
大弛小屋	17:50 着	(冬期小屋泊)
(歩行時間：8時間30分)		



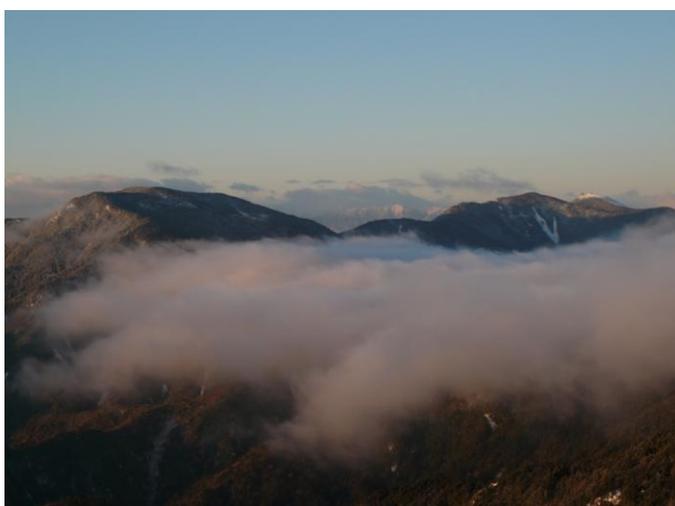
甲武信ヶ岳の登り。樹林の間から朝日が差し込む。



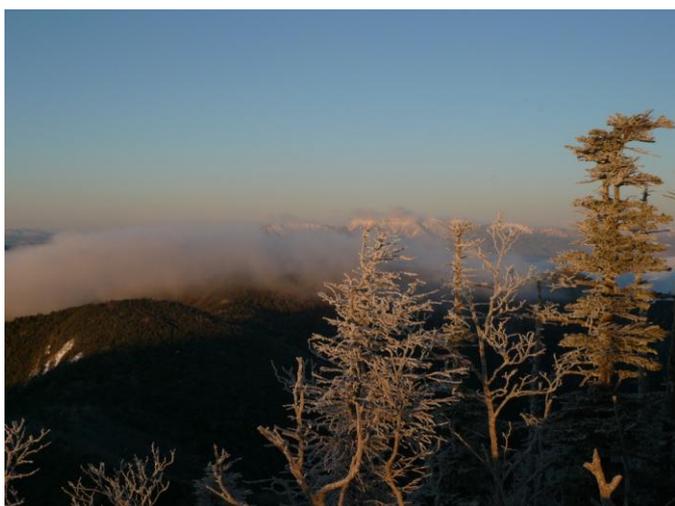
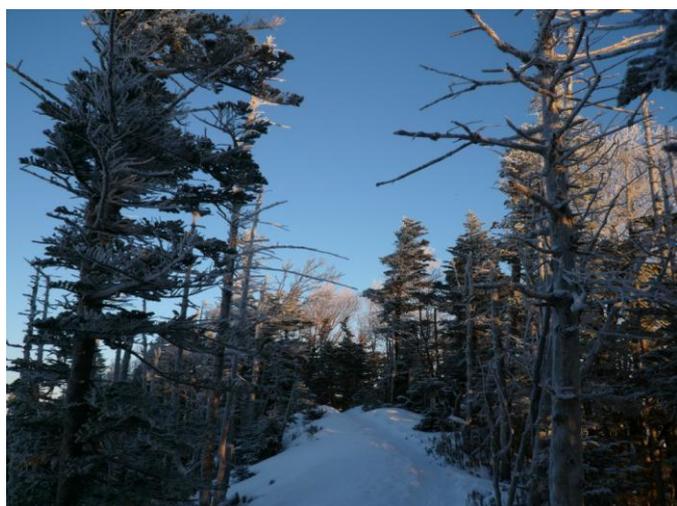
山頂直下に見晴らしのいい場所がある。  
快晴だが、南の方は少し雲が多い。



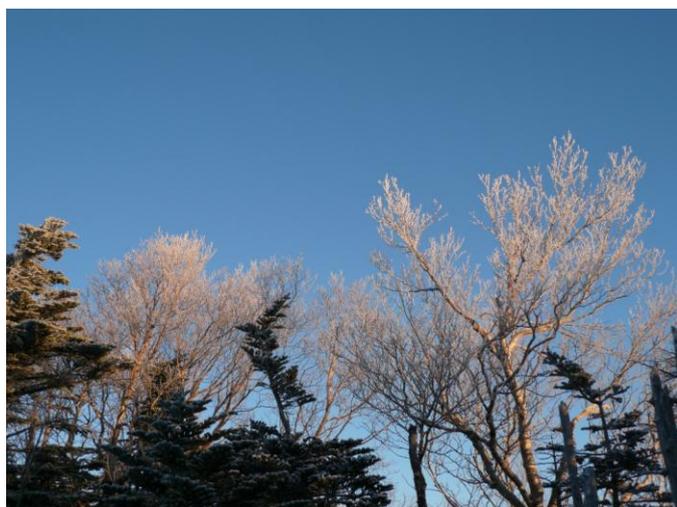
この日歩く国師ヶ岳の稜線



左が国師ヶ岳と北奥千丈岳、右の白いのが金峰山。



八ヶ岳





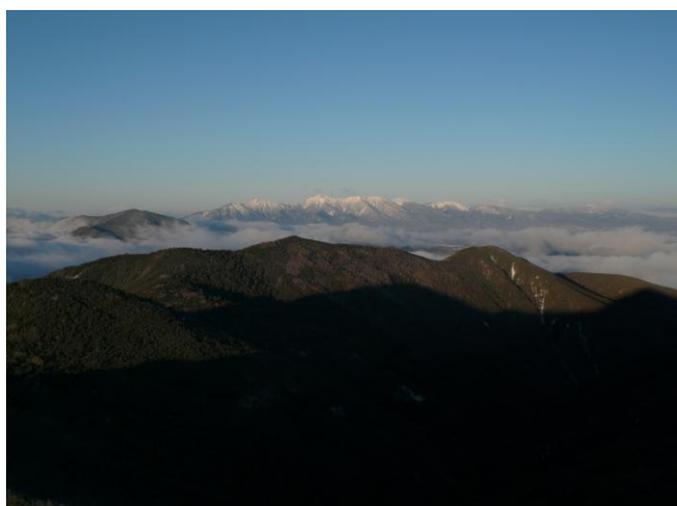
甲武信ヶ岳山頂（2475m）に到着。



西の眺め。遠くの山は八ヶ岳。



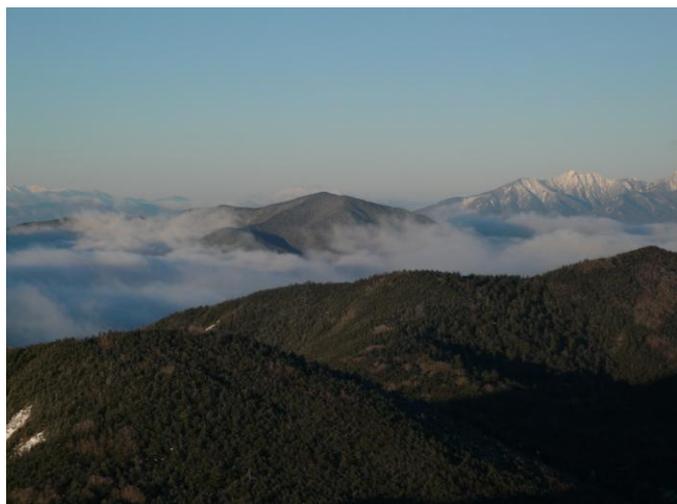
二人で記念撮影



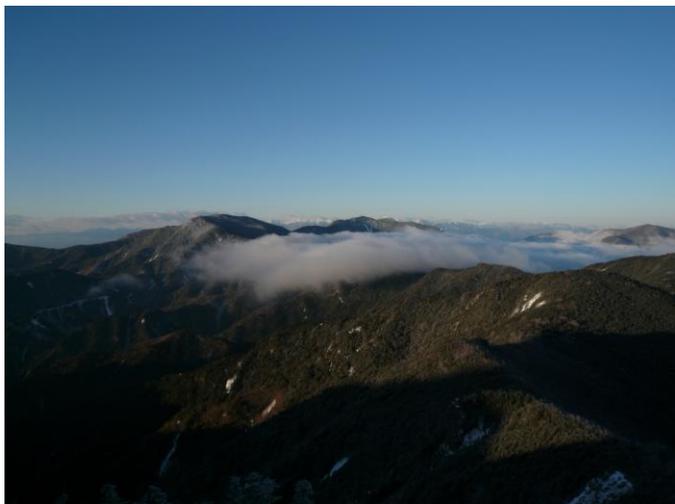
八ヶ岳遠望。左の山は、この縦走で目指す小川山。



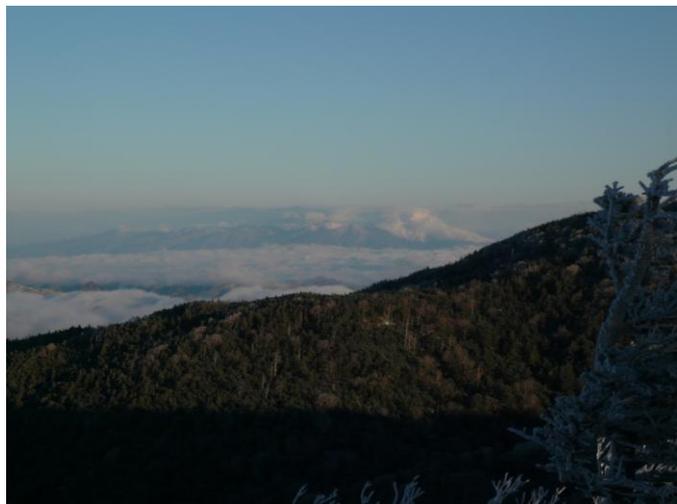
甲武信ヶ岳山頂は、東の方角だけが樹林におおわれていて展望が得られないが、残りの方角は素晴らしい眺め。



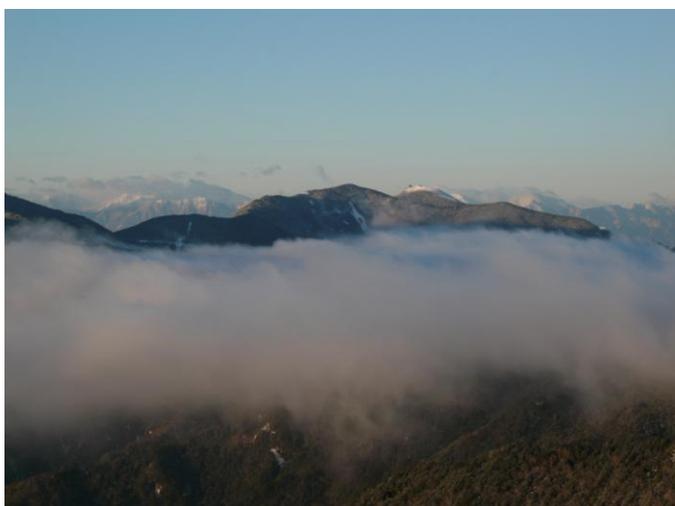
魅力的な山容の小川山。小川山に対する思いがますます強くなった。



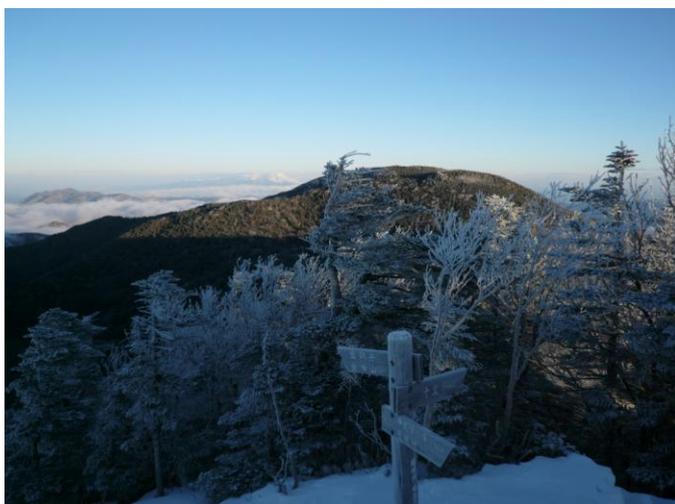
奥秩父主稜の山並。中央は朝日岳と金峰山、その左が国師ヶ岳と北奥千丈岳、右端は小川山。



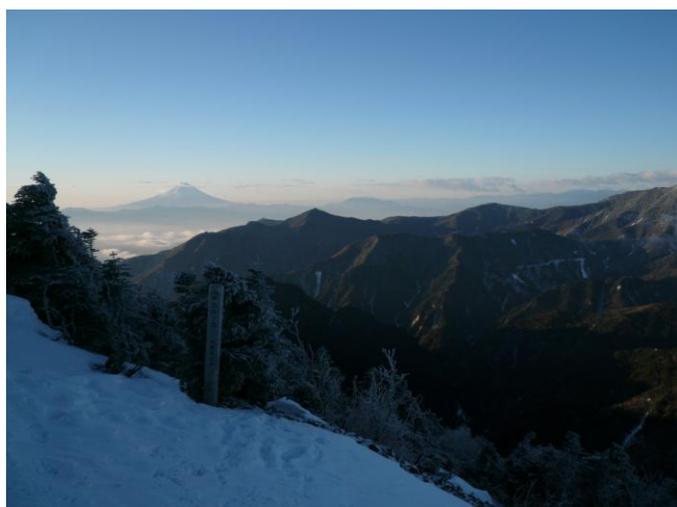
浅間山遠望



朝日岳（中央）・金峰山（そのすぐ右）遠望。遠くには南アルプスの山並みが。

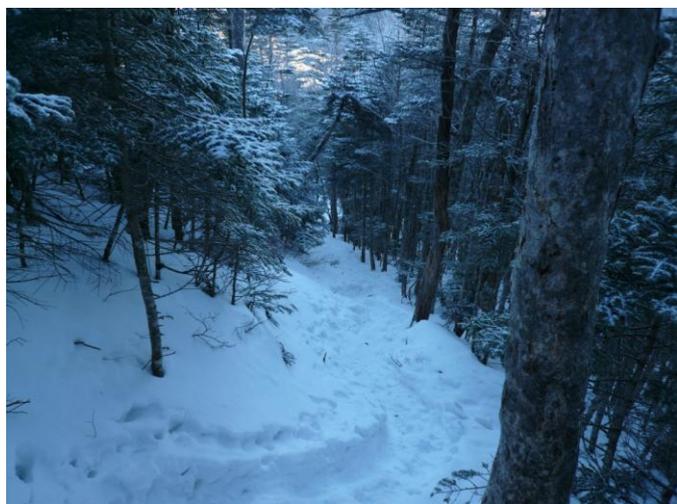
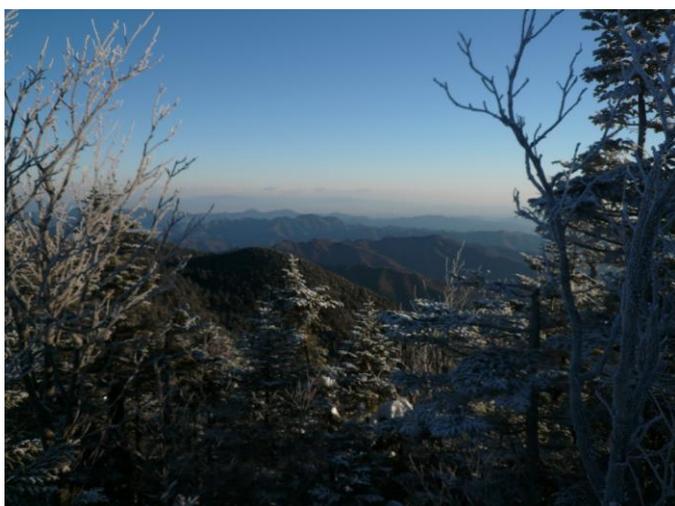


北の眺め。中央のなだらかな山は三宝山、そのすぐ左の遠方に浅間山、左端は御座山（2112m）。



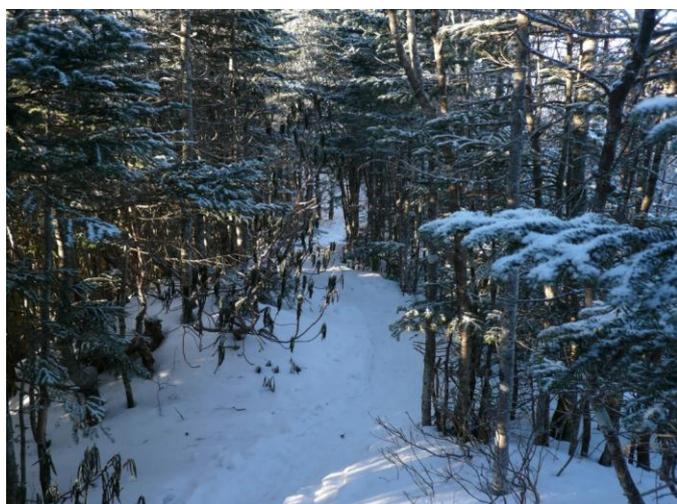
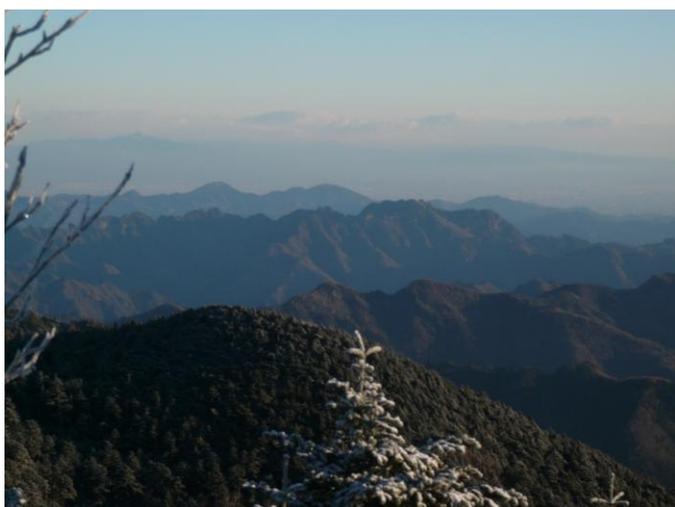


ずっと眺めを楽しんでいたかったが、風が強く、体が冷えて来たので出発することに。甲武信ヶ岳から急坂を下る。



北東の眺め。中央は両神山。

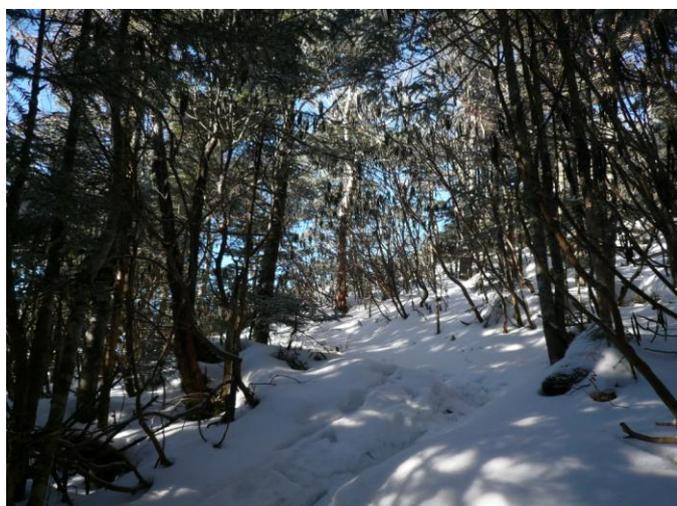
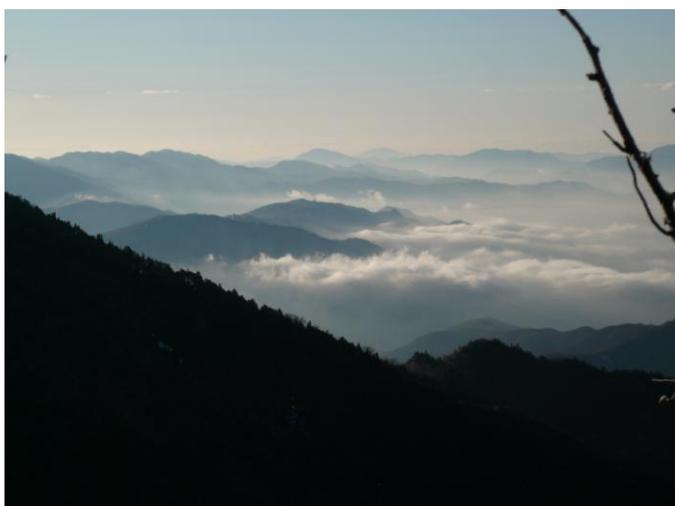
すぐになだらかな樹林帯の道となる。しっかりとしたトレースがついている。



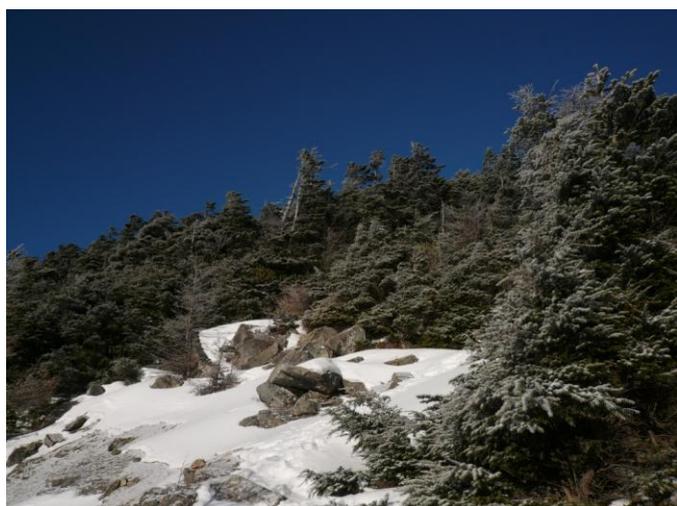
中央のぎざぎざの山が両神山



梓山（川上村）方面への分岐。右に行くと梓山。私たちは、国師ヶ岳を目指して直進する。



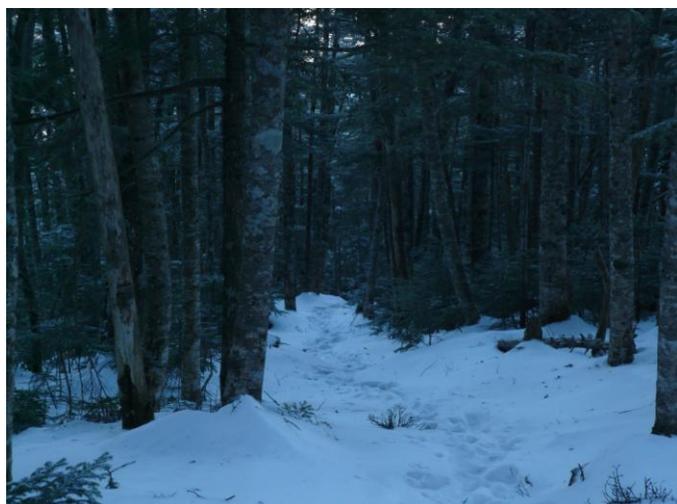
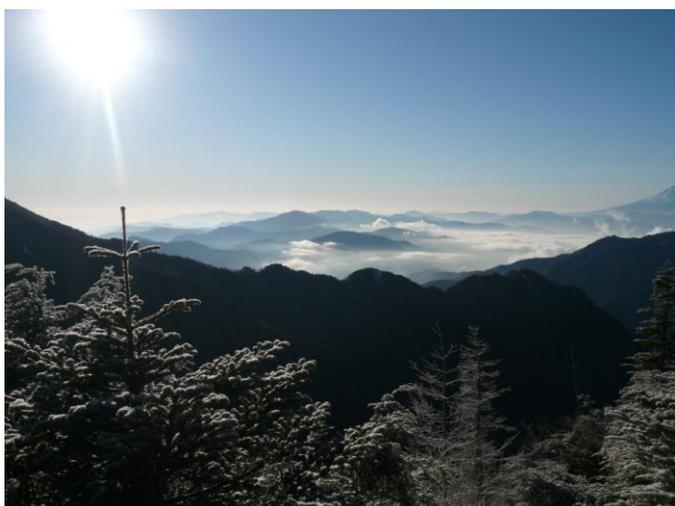
水師（2396m）への登り



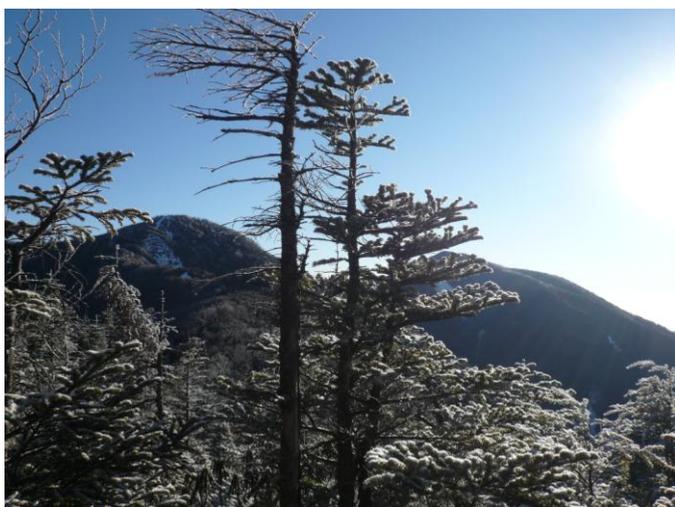
真っ青な空に吸い込まれそう



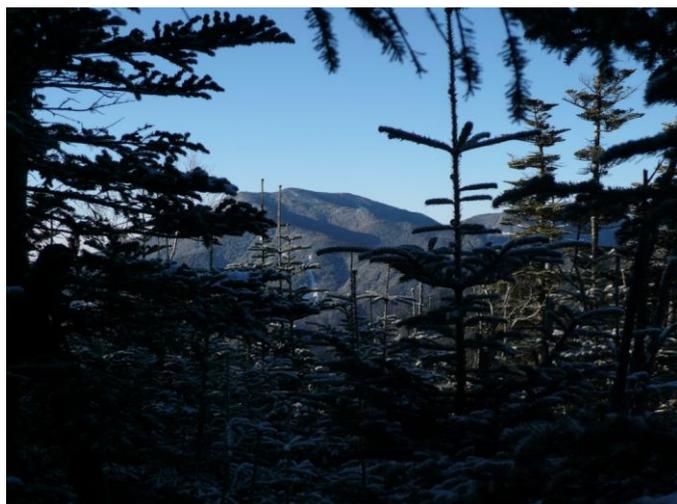
樹林におおわれた水師山頂。シャクナゲが多い。



薄暗い原生林の中を進む



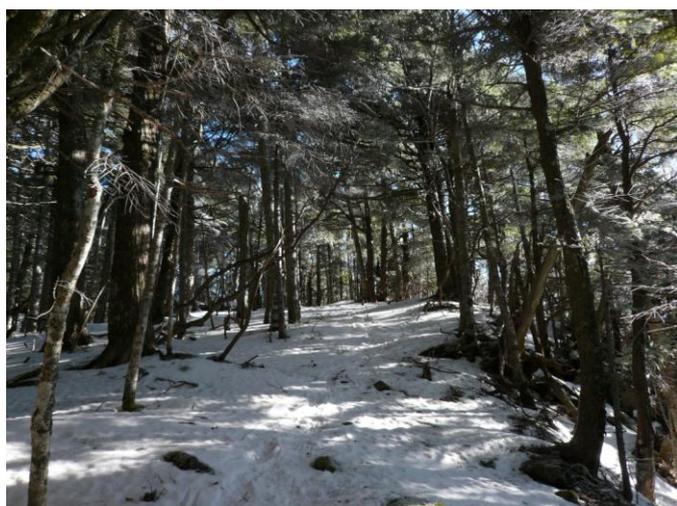
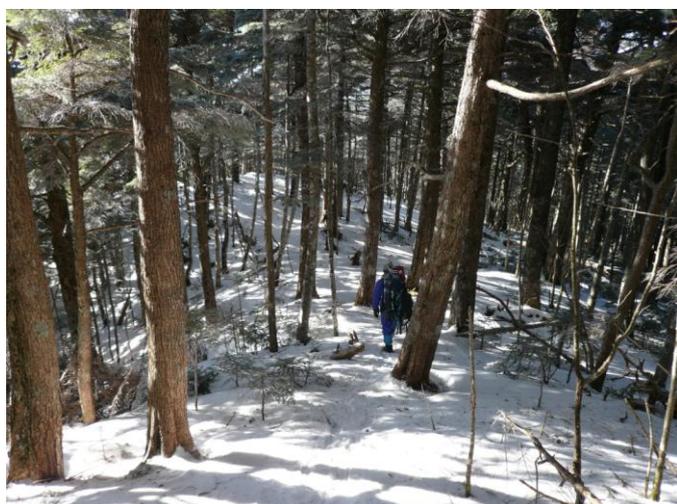
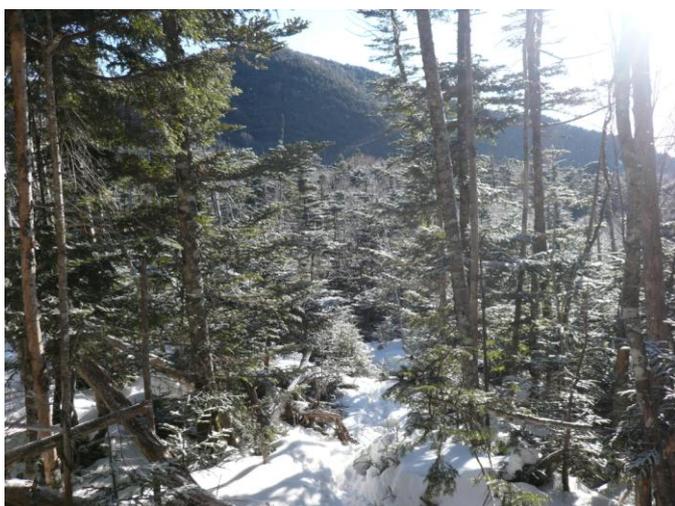
甲武信ヶ岳（左）を振り返る。右は木賊山。



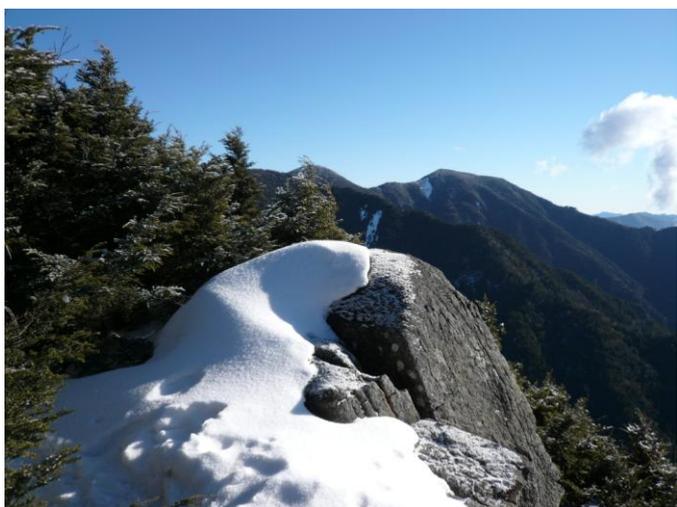
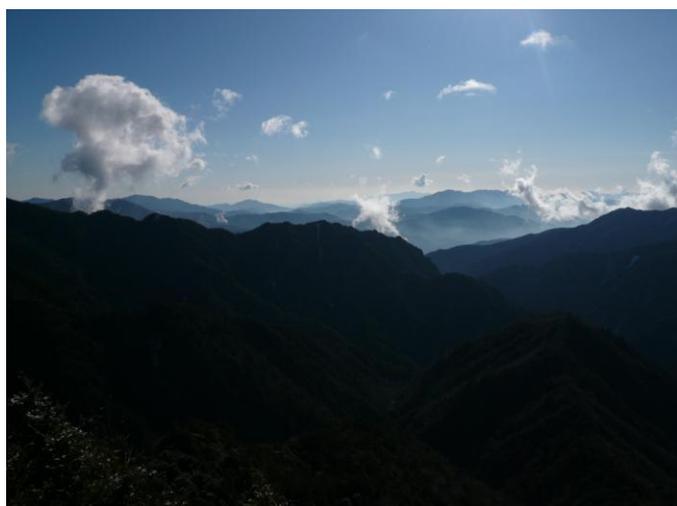
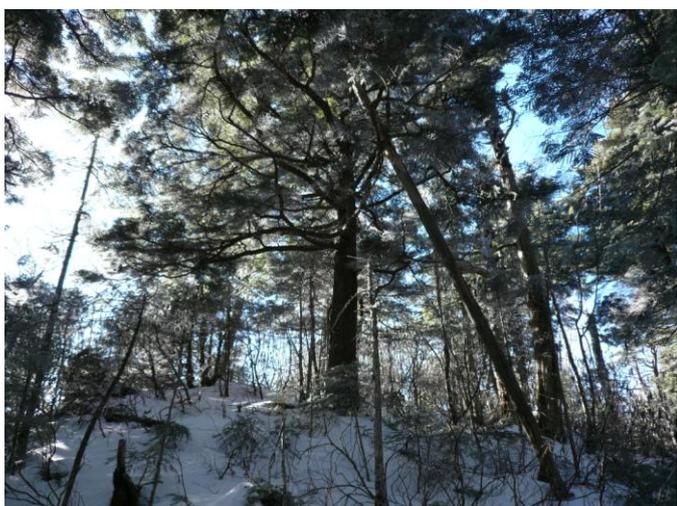
目標の国師ヶ岳はまだまだ遠い



富士見（2373m）山頂。西に進んで来た道はここで直角に折れ曲がり、南に進む。



雪は深いところでも 30cm 程度。トレースがしっかりしており、赤布のマークもしっかりついているので、まったく迷うことはない。



東方向に開けた両門ノ頭 (2263m)。中央の木の枝の影になっているのが甲武信ヶ岳、その右が木賊山。

南東の谷を見下ろす。中央の尾根は塩山尾根、そのすぐ左の谷が、有名な笛吹川東沢の左俣。左のぎざぎざの尾根は鶏冠尾根。



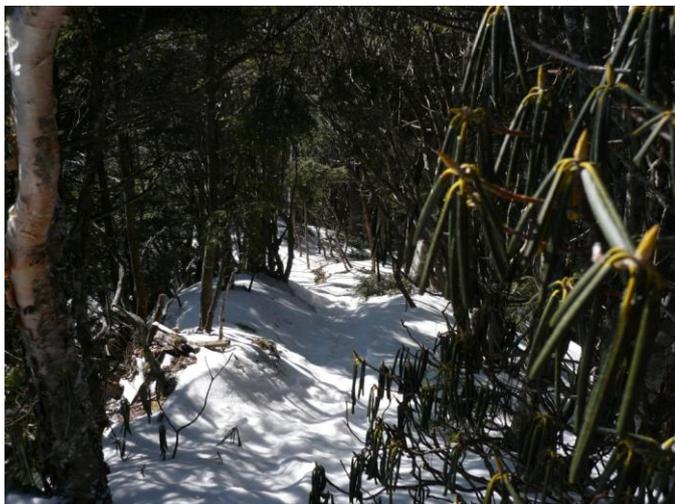
国師ヶ岳（左）へ続く尾根。国師ヶ岳はまだ遠い。眺めがよく、日当たりも良くて気持ちよかったので両門ノ頭で1時間ものんびりしてしまった。



再び樹林帯の道を進む。



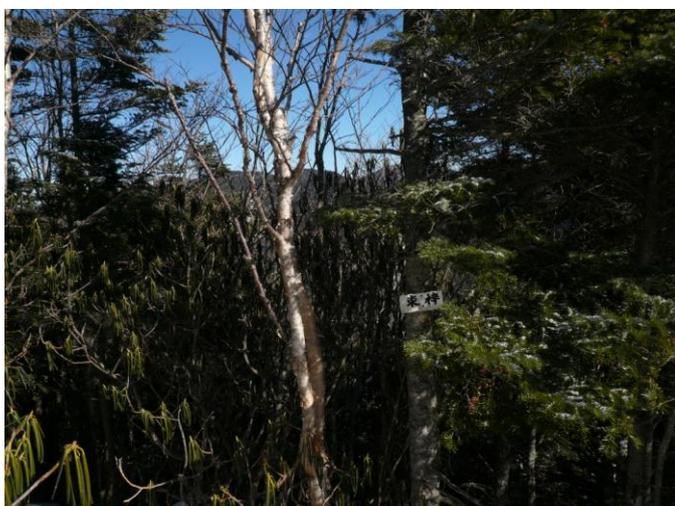
小さなアップダウンが多い。これが結構応える。



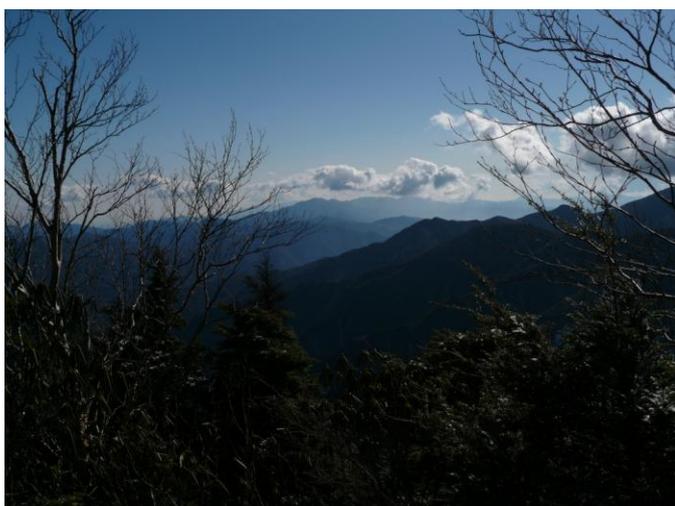
針葉樹にシャクナゲ、ダケカンバの混ざる原生林が続く

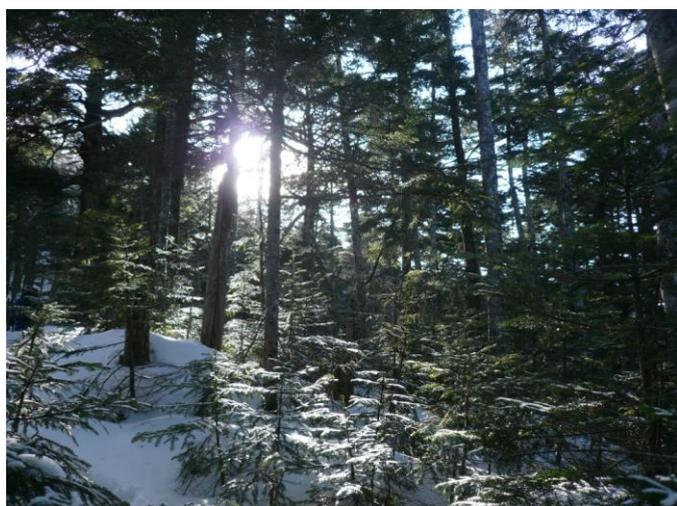


雲が多くなってきた

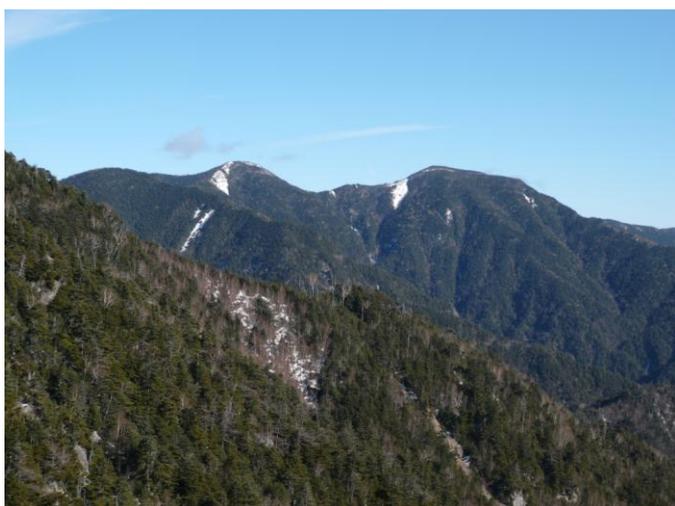


東梓 (2272m)





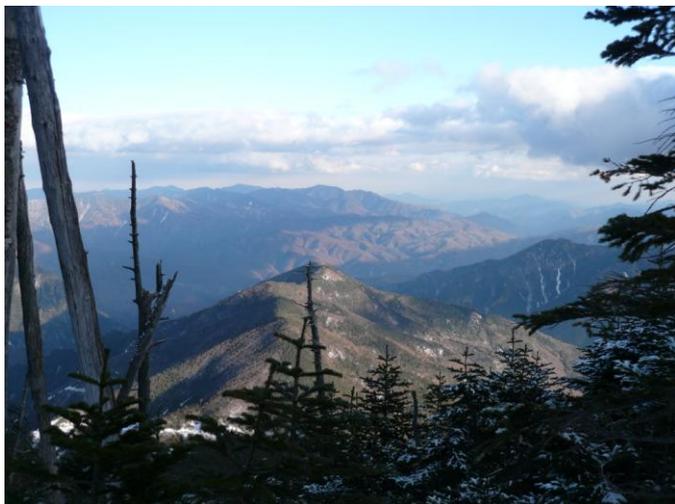
振り返ると、甲武信ヶ岳（中央やや右）は彼方となっていた。



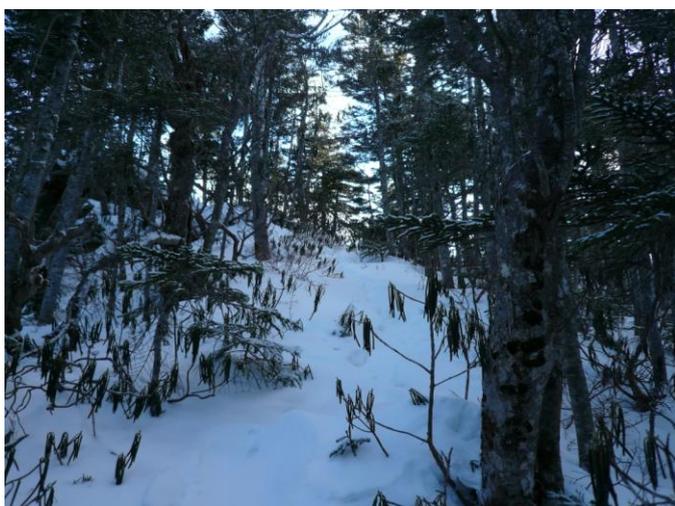
甲武信ヶ岳（左）と木賊山（右）



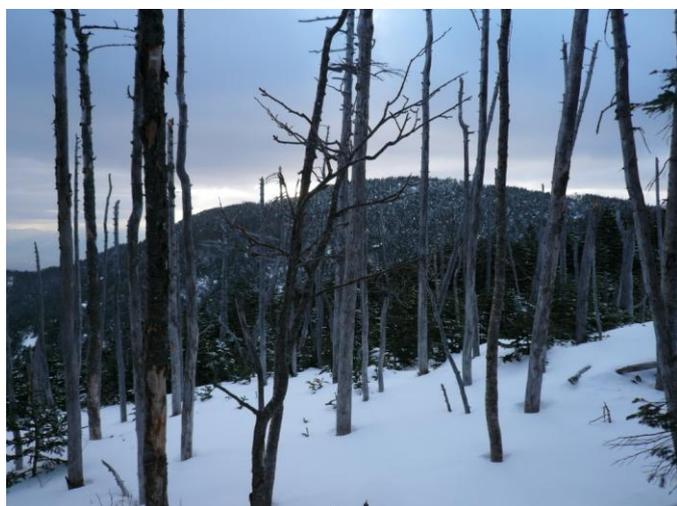
国師ヶ岳（右）が少し近づいてきた



国師ヶ岳は目の前



国師ヶ岳への登り。だんだん雪が多くなり、深いところでは 50cm ほどに。トレースを外すと膝上まで潜ってしまう。荷物の重さでバテていた二人には苦しい登りだった。



奥秩父の最高地点、北奥千丈岳（2601m）。



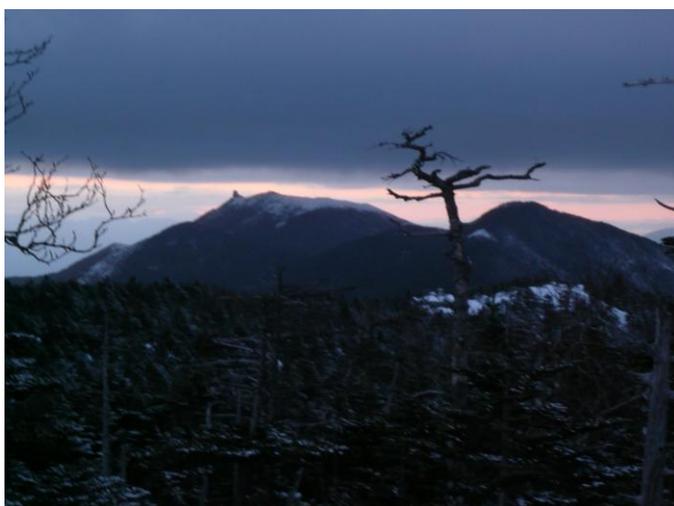
ようやく国師ヶ岳の稜線（天狗尾根）に到着。ちょうど 4 時になったので、気象情報を聞いて天気図をつけた（6 日間毎日、後藤が天気図をつけてくれた）。



ようやく国師ヶ岳に到着。もう夕方 5 時。  
奥の山は北奥千丈岳。



前国師を通過する頃には真っ暗になってしまった。



五丈岩の目立つ金峰山（中央やや左。山頂から飛び出した大きな岩が五丈岩）。右の山は朝日岳。



夕方6時、ようやく目的地の大弛峠に到着。



北奥千丈岳への分岐。往復する計画だったが、雪が深くてトレースもなく、時間がすごくかかりそうだったので、またの機会に行くことに。



小屋は無人開放していたが有料（4000 円）なので、小屋の前で幕営（幕営地がよく分からなかった）。水場は小屋の中にあるので、ありがたいことに凍っていなかった。（冬期小屋の入口を入ると水場がある）